

## 解剖学 I

責任者・コーディネーター	解剖学講座（機能形態学分野） 藤原 尚樹 教授				
担当講座（分野）	解剖学講座（機能形態学分野）				
対象学年	1	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義/演習	実習	
期間	後期		前期	—	—
			後期	42.0時間	0.0時間

### 学修方針（講義概要等）

歯ならびに身体の健康を維持するために必要な人体の正常構造と機能を理解することは、人体がどのような仕組みで生命活動を営み、恒常性を保っているかを知ることだけでなく、歯科医としての治療方針や治療計画を立案する際の基礎知識ともなる。第1学年の解剖学では、身体各部の支持器官の構造について、特に全身の骨と筋の配置や走行、これらの関連性を機能的意義も含めて統合的に学修する。さらに、硬組織と周囲組織が密接な関係のもとで成り立っている歯の植立や排列の特徴、永久歯の形態的特徴と変異についても学修する。またこれらの理解は、第2学年以降に学修する専門基礎科目や臨床歯科科目における学修基盤となるばかりでなく、将来歯科医として適切な治療や最新医療に対応するために必要な礎となる。

### 教育成果（アウトカム）

身体各部の方向用語、部位名など解剖学を学ぶ上で基盤となる用語を正しく理解し人体を診るために必要な基本的構造を理解できるようになる。また人体を構成する骨と筋の解剖学的特徴、存在部位と機能の関連を考えながら学ぶことにより、形態の普遍性と変異を三次元的に理解できるようになる。

歯に関連する記号や方向用語、歯の形態の意義、構造の理由、周囲組織との関係性を系統発生的に学ぶことにより、ヒトの歯の基本的な構造や形態の普遍性と変異を理解できるようになる。また歯の外形を内部構造を想像しながらスケッチすることあるいは提示する演習課題についてまとめることを通して歯科臨床に必要な歯の立体構造について理解できるようになる。

（関連するディプロマポリシー：2、4、8、9）

### 到達目標（SBOs）

1. 歯科医師の視点から人体の成り立ちについて包括的に捉え、解剖学の必要性を説明できる。
2. 歯科医師として必要な人体の主な骨と、その接合様式及び動きの関係性について説明できる。
3. 歯科医師として必要な人体の主な筋とその走行、動作との関係性について説明できる。
4. 歯科医師として必要な歯の定義と記号、歯の方向用語と排列、咬合について説明できる。
5. 歯科治療において必要な歯の形態的特徴と機能との関係性、異常について説明できる。
6. 自己学修や自己教育力が専門職には重要な要件であることを説明できる。

## 事前事後学修の具体的内容及び時間

### 【事前学修】

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、テキストと各欄に示す教科書の該当領域を読み、要点をまとめておくこと。また「口腔顎顔面解剖ノート」のページをWebClassに提示するので、該当ページの演習あるいは講義の中で別に指示する予習内容について事前に演習を行い各授業前に提出すること。その内容については授業の中で概説しフィードバックする。解剖学は積み重ね式に学習が構成されており、各授業の前にはそれまでに学修した内容について振り返りを行う必要があり、講義、実習中に質問あるいはディスカッションによって事前学修の確認を行うと共に適宜質問に対するフィードバックを行う。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

### 【事後学修】

次回の授業の効果的な理解のために、各講義の学修内容の理解と整理が必要となる。講義のまとめと演習課題は遅滞することなく、次回の講義前までに完成することで有効な学修効果を発揮する。そのため授業中にテキストに記入した内容の整理など各講義の振り返りとして最低30分程度の事後学修を行うことが必要である。本内容は実習を含め全授業に対して該当するものとする。演習は講義で学修した内容の事後学修の意味合いもあり、歯の形態のスケッチのみならず学修した内容の振り返りとして定着を図ることを目的とする。スケッチの描写と特徴のまとめは遅延することなく、次回の講義前までに完成することで有効な学修効果を発揮する。そのため各演習の振り返りと歯の形態のスケッチ描写として最低90分程度の事後学修を行うことが必要である。本内容は全演習に対して該当するものとする。

(事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する)

講義/演習日程表

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [コア・カリキュラム] 事前事後学修
講義	9/1 (火)	1	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)  吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>解剖学概論 骨学概論</b>  身体の方向用語、人体の構成と機能との関係性を理解する。 骨の形態による分類、関節の構造と種類を理解する。	1. 身体の構造を表現するために用いられる用語について説明できる。 2. 人体の方向を表す基準面を説明できる。 3. 身体各部位の解剖学名を説明できる。 4. 骨の構造と形態による分類について説明できる。 5. 関節の基本構造と接合様式による可動性と身体運動との関連について説明できる。 <b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-1-4-2, A-3-1-7-1, A-3-2-8-1, A-3-2-1]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P1～P9, P34～39 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度
講義	9/2 (水)	2	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)  吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>骨学：体幹を構成する骨 椎骨・肋骨</b>  椎骨の基本的な形態と脊柱としての機能、肋骨との関連性を理解する。	1. 椎骨の基本構造が説明できる。 2. 各椎骨の特徴を説明できる。 3. 椎骨の彎曲と体重支持の関連性について説明できる。 4. 肋骨の連結と胸郭の構造を説明できる。 <b>[A-3-1-2-1]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P9～P13 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度

講義	9/8 (火)	1	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>骨学：上肢骨・下肢骨</b></p> <p>四肢骨(上肢骨・下肢骨)、上肢帯と骨盤を構成する骨の特徴と異同を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上肢帯・下肢帯を構成する骨を列挙できる。</li> <li>2. 肩関節、股関節の構造とその特徴を説明できる。</li> <li>3. 骨盤の構造と性差、寛骨の解剖学的特徴について説明できる。</li> <li>4. 上腕骨、橈骨、尺骨と大腿骨、脛骨、腓骨の形態と特徴を説明できる。</li> <li>5. 肘関節・膝関節の構造と異同を説明できる。</li> <li>6. 手根骨の種類とその骨化と年齢の関係性を説明できる。</li> <li>7. 手足の骨の異同を説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-1-2-1]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P13～P19 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	9/9 (水)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>骨学：頭蓋冠、内・外頭蓋底、眼窩・鼻腔・口蓋</b></p> <p>頭蓋骨を構成する骨を理解し、それぞれの縫合と構造を理解する。顔面骨・眼窩、鼻腔・口蓋・顎関節の構築を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 頭蓋骨を構成する骨について正面、側面観、正中矢状断から説明できる。</li> <li>2. 頭蓋骨相互の縫合と成長過程で見られる構造を説明できる。</li> <li>3. 内・外頭蓋底の窩、裂、管、孔の形態と位置について説明できる。</li> <li>4. 眼窩、鼻中隔、鼻腔、副鼻腔、口蓋、顎関節を構成する骨と構造との関係を説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-2-2]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P113～P139, 150～153 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

講義	9/15 (火)	1	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>筋学概論</b> <b>筋学：体幹の筋</b></p> <p>運動器としてみた筋肉の解剖学的特徴と動作との関係を理解する。体幹の筋肉の種類、特徴を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨格筋の特徴を心筋、平滑筋と比較して説明できる。</li> <li>2. 筋の起始と停止の概念について説明できる。</li> <li>3. 背部の筋の種類と各筋の主な機能を説明できる。</li> <li>4. 胸部の筋の種類と各筋の主な機能を説明できる。</li> <li>5. 腹部の筋の種類と各筋の主な機能を説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-1-3-3]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P20～27 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	9/16 (水)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>筋学：上肢・下肢の筋</b></p> <p>上肢、下肢の筋の種類と関節の動きとの関係を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上肢帯の筋を説明できる。</li> <li>2. 自由上肢の筋を説明できる。</li> <li>3. 主動筋と拮抗筋の概念と具体例を説明できる。</li> <li>4. 下肢帯の筋を説明できる。</li> <li>5. 自由下肢の筋を説明できる。</li> <li>6. 筋肉注射に用いる筋と基準点を説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-1-3-3]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P27～33 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

講義	9/29 (火)	1	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>筋学：頭頸部の筋骨学・筋学のまとめ演習</b></p> <p>頭頸部の筋の種類と特徴を理解する。身体を構成する骨と筋の構成を整理し、それらの関連性について理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表情筋、咀嚼筋、広頸筋、舌骨上筋群、舌骨下筋群の種類と走行の概略を説明できる。</li> <li>2. 全身の骨・筋を列挙できる。</li> <li>3. 各骨の連結、関節、関節の動きと筋との関係を説明できる。</li> <li>4. 頭蓋骨の連結を説明できる。</li> <li>5. 頭蓋骨に存在する孔、裂、管等と脈管・神経の走行経路との関連性を説明できる。</li> <li>6. 筋の起始・停止と機能について説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-2-2]</b>  事前学修：これまでにWebClassに提示した「口腔顎顔面解剖ノート」の課題と「口腔解剖学第3版」の以下の領域を振り返り、内容を整理しておくこと。P1～39, 113～139, 150～153 所要時間30分程度  事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	9/30 (水)	2	<p>志賀華絵 非常勤講師</p> <p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>歯の解剖 概論</b></p> <p>歯とはなにか、歯の種類と特徴、歯に関わる用語と記号を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯の概念を説明できる。</li> <li>2. 歯の起源、形態と機能の関係、植立様式、交換について説明できる。</li> <li>3. 歯の種類、方向用語を説明できる。</li> <li>4. 歯式、歯の記号を説明できる。</li> <li>5. 歯の歯面区分、外形区分を説明できる。</li> <li>6. 歯の外形的、内景的特徴を説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-4-2, 3, 4, 5, 6]</b>  事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「口腔解剖学第3版」のP4～P6、「第2版図説歯の解剖学」のP1～P36を読み、内容をまとめておくこと。 所要時間30分程度  事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

演習	10/20 (火)	1	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>骨学・筋学のまとめ</b></p> <p>到達度試験</p>	<p>1. 全身の骨・筋を列挙できる。 2. 各骨の連結、関節を説明できる。 3. 頭蓋骨の連結を説明できる。 4. 孔、裂等の構造物と脈管・神経の走行経路との関係を説明できる。 5. 人体を構成する筋とそれら筋肉の起始・停止から機能について説明できる。</p> <p><b>[A-3-1-2-1, A-3-1-3-3, A-3-2-2]</b></p> <p>事前学修：これまでにWebClassに提示した「口腔顎顔面解剖ノート」の課題と「口腔解剖学第3版」の以下の領域を振り返り、内容を整理しておくこと。P1～39, 113～139, 150～153 所要時間60分程度 事後学修：試験終了後掲示する正答を見て自己採点し、理解不足の点について振り返りをする。 所要時間30分程度</p>
講義	10/21 (水)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>歯の形態の観察方法 歯の計測とスケッチの仕方</b></p> <p>歯の測定法、ノギスの使い方を理解する。上顎中切歯を正しく計測し、スケッチに表現できる。</p>	<p>1. 歯の形態を立体的に理解するための基本事項とその意義を説明できる。 2. 歯の各面の形態的特徴を表現できる。 3. 歯の左右側鑑別点を図解できる。 4. 歯の外形を理解するための計測ポイントを理解できる。 5. ノギスを正しく使用し、歯の外形を計測できる。 6. 上顎中切歯の特徴を説明できる。 7. 上顎中切歯の特徴を理解し、計測に基づきスケッチに表現できる。</p> <p><b>[A-3-4-2, 3, 4, 5, 6]</b></p> <p>事前学修：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P187～P199 所要時間30分程度 事後学修：講義中に学修した内容を元にスケッチに歯の形態を表現し、特徴を列挙すること。 所要時間30分程度</p>

講義	10/27 (火)	1	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>歯の解剖： 上顎・下顎切歯</b></p> <p>上顎・下顎切歯の形態的特徴を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 切歯の概念を説明できる。</li> <li>2. 上顎中切歯を基準として各前歯との異同を説明できる。</li> <li>3. 上顎側切歯の特徴を説明できる。</li> <li>4. 下顎中切歯の特徴を説明できる。</li> <li>5. 下顎側切歯の特徴を説明できる。</li> <li>6. 上下顎切歯の鑑別点を説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-4-2, 3, 4, 5, 6]</b></p> <p>事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P37～P51 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
演習	10/28 (水)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>歯の解剖： 上・下顎切歯演習</b></p> <p>上顎・下顎切歯の形態的特徴を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各歯の計測ポイントを理解し、スケッチとして正しく表現できる。</li> <li>2. 上顎中切歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。</li> <li>3. 上顎側切歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。</li> <li>4. 下顎中切歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。</li> <li>5. 下顎切歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-4-2, 3, 4, 5, 6]</b></p> <p>事前学修：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P37～P51、10月21, 22日の講義内容を復習しておくこと。 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：講義中に学修した内容を元にスケッチに歯の形態を表現し、特徴を列挙すること。 所要時間90分程度</p>
講義	11/4 (水)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>歯の解剖： 上顎・下顎犬歯</b></p> <p>上顎・下顎犬歯の形態的特徴を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 犬歯の定義を説明できる。</li> <li>2. 上顎犬歯の特徴を説明できる。</li> <li>3. 下顎犬歯の特徴を説明できる。</li> <li>4. 上下顎犬歯を区別できる。</li> <li>5. 左右側の鑑別点を説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-4-2, 3, 4, 5, 6]</b></p> <p>事前学修：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P51～P56 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

演習	11/5 (木)	1	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>歯の解剖： 上・下顎犬歯演習</b></p> <p>上顎・下顎犬歯の形態的特徴を理解する。</p>	<p>1. 各歯の計測ポイントを理解し、スケッチとして正しく表現できる。 2. 上顎犬歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。 3. 下顎犬歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。 <b>[A-3-4-2, 3, 4, 5, 6]</b> 事前学修：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P51～P56 10月29日の講義内容を復習しておくこと。 所要時間30分程度 事後学修：講義中に学修した内容を元にスケッチに歯の形態を表現し、特徴を列挙すること。 所要時間90分程度</p>
講義	11/11 (水)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>歯の解剖： 上顎小臼歯</b></p> <p>上顎小臼歯の形態的特徴を理解する。</p>	<p>1. 小臼歯の形態の概念を説明できる。 2. 上顎第一小臼歯の特徴を説明できる。 3. 上顎第二小臼歯の特徴を説明できる。 4. 第一・第二小臼歯を区別できる。 5. 左右側の鑑別点を説明できる。 <b>[A-3-4-2, 3, 4, 5, 6]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P56～P62 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
講義	11/18 (水)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>歯の解剖： 下顎小臼歯</b></p> <p>下顎小臼歯の形態を理解する。</p>	<p>1. 下顎小臼歯を上顎小臼歯と比較してその特徴を説明できる。 2. 下顎第一小臼歯の特徴を説明できる。 3. 下顎第二小臼歯の特徴を説明できる。 4. 第一・第二小臼歯を区別できる。 5. 左右側の鑑別点を説明できる。 <b>[A-3-4-2, 3, 4, 5, 6]</b> 事前学修：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P56～P66 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

演習	11/25 (水)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>歯の解剖：</b> <b>上顎・下顎小白歯演習</b></p> <p>上顎・下顎小白歯の形態的特徴を理解する。</p>	<p>1. 各歯の計測ポイントを理解し、スケッチとして正しく表現できる。 2. 上下顎第一小白歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。 3. 上下顎第二小白歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。 <b>[A-3-4-2, 3, 4, 5, 6]</b> 事前学修：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P56～P66 11月5, 12日の講義内容を復習しておくこと。 所要時間30分程度 事後学修：講義中に学修した内容を元にスケッチに歯の形態を表現し、特徴を列挙すること。 所要時間90分程度</p>
講義	11/26 (木)	1	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>歯の解剖：</b> <b>上顎大臼歯</b></p> <p>上顎大臼歯の形態的特徴を理解する。</p>	<p>1. 大臼歯の概念、進化的特徴を説明できる。 2. 上顎第一大臼歯の特徴を説明できる。 3. 上顎第二大臼歯の特徴を説明できる。 4. 機能咬頭と非機能咬頭の意味と歯の排列との関係を説明できる。 5. 歯の遠心方向の退化についての概念を説明できる。 6. 多根歯を説明できる。 7. 左右側の鑑別点を説明できる。 8. 咬頭数と裂溝の関連性を説明できる。 9. 上顎第一・第二大臼歯を区別できる。 <b>[A-3-4-2, 3, 4, 5, 6]</b> 事前学修：WebClassに提示する「口腔顎顔面解剖ノート」の課題を実施すると共に、「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P66～P76 所要時間30分程度 事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>

講義	12/2 (水)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>歯の解剖： 下顎大臼歯</b></p> <p>下顎大臼歯の形態的特徴を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 下顎大臼歯を上顎大臼歯と比較してその特徴を説明できる。</li> <li>2. 下顎第一大臼歯の特徴を説明できる。</li> <li>3. 下顎第二大臼歯の特徴を説明できる。</li> <li>4. 咬頭の機能を説明できる。</li> <li>5. 歯の遠心方向の退化についての概念を説明できる。</li> <li>6. 咬頭数と裂溝の関連性を説明できる。</li> <li>7. 左右側の鑑別点を説明できる。</li> <li>8. 下顎第一・第二大臼歯を区別できる。</li> <li>9. 第三大臼歯の特徴を説明できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-4-2, 3, 4, 5, 6]</b></p> <p>事前学修：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P66～P83 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
演習	12/9 (水)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>歯の解剖： 上顎・下顎大臼歯演習</b></p> <p>上顎・下顎大臼歯の形態的特徴を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各歯の計測ポイントを理解し、スケッチとして正しく表現できる。</li> <li>2. 上顎第一大臼歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。</li> <li>3. 上顎第二大臼歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。</li> <li>4. 下顎第一大臼歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。</li> <li>5. 下顎第二大臼歯の特徴を理解し、スケッチに表現できる。</li> </ol> <p><b>[A-3-4-2, 3, 4, 5, 6]</b></p> <p>事前学修：「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を読み、内容をまとめておくこと。P66～P83 11月26日, 12月3日の講義内容を復習しておくこと。 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：講義中に学修した内容を元にスケッチに歯の形態を表現し、特徴を列挙すること。 所要時間90分程度</p>

講義	12/16 (水)	2	<p>藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p> <p>吉岡望准教授 (解剖学講座 機能形態学分野)</p>	<p><b>歯の解剖： 歯の異常形態、咬合、 歯髓腔 永久歯形態のまとめ</b></p> <p>歯髓腔の形態と加齢変化を理解する。 歯列弓の形態、大きさ、上下顎の咬合状態を理解する。 齲蝕など歯科治療に関連する歯の構造や特徴を理解する。</p>	<p>1. 歯に好発する異常形態について説明できる。 2. 歯髓腔の概念、歯の外形と歯髓腔の関連性を説明できる。 3. 顎骨と歯列弓の関係を説明できる。 4. 上下顎の歯の接触・咬合関係、支持咬頭と誘導咬頭の意義を説明できる。 5. 接触点、歯間隙、鼓形空隙を説明できる。 6. 上下顎永久歯の鑑別点を説明できる。</p> <p><b>[A-3-4-2, 3, 4, 5, 6]</b></p> <p>事前学修：これまでにWebClassに提示した「口腔顎顔面解剖ノート」の課題と「第2版図説歯の解剖学」の以下の領域を振り返り、内容を整理しておくこと。P22～27, 125～P141 所要時間30分程度</p> <p>事後学修：テキストの内容と講義中に書き込んだ内容を振り返り、要点を整理すること。 所要時間30分程度</p>
----	--------------	---	---	--	--

## 教科書・参考書・推薦図書

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	口腔解剖学 第3版	前田健康、天野修、阿部伸一、馬場麻人 編	医歯薬出版	2025
教	図説 歯の解剖学 第2版	高橋和人ほか 著	医歯薬出版	1998
教	口腔顎顔面解剖ノート 第2版	井出吉信 監修 阿部伸一ほか 編	学建書院	2022
参	イラストで分かる歯科医学の基礎 第5版	村上秀明、西村康、天野修 監修	末永書店	2025
参	イラスト口腔顔面解剖学	松村譲児、島田和幸 編著	中外医学社	2024
参	歯の解剖学 第22版	藤田恒太郎 著 桐野忠大、山下靖雄 改訂	金原出版	1995
参	基礎から学ぶ歯の解剖	前田健康 編 酒井英一 著	医歯薬出版	2015
参	みえる人体 構造・機能・病態	S. Parker 著 佐藤達夫、松尾理 監訳	南江堂	2009

## 成績評価方法・基準・配点割合等

到達度試験ならびに後期試験と提出物（課題・スケッチ等）を総合して合計が60点以上を合格とする。

ただし歯の形態スケッチは永久歯すべてを指定された書式で完成させ提出することを評価の必要要件とする。

内訳：到達度試験（40%）、後期試験（50%）、提出物（10%）

到達目標	DP	演習課題	歯の形態演習	到達度試験	定期試験	その他	合計
1	8, 9	2					2
2, 3	4, 8	3		35			38
4, 5	4, 8		5		40		45
6	2			5	10		15
<b>合計</b>		<b>5</b>	<b>5</b>	<b>40</b>	<b>50</b>		<b>100</b>

## 特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

### 【講義、実習共通】

出席は開始直後にとる。講義・実習の始めに課題や講義内容に関する確認事項を提示する関係から特別な理由がない限りそれ以降に申し出た場合は認めない。

### 【講義】

各講義において学習した内容は次回以降の講義の基盤となる。各講義はすべて積み重ね式の講義体系を取っているため、講義ごとにその内容をしっかり理解しておく必要がある。それには教科書や参考資料の記載を読み、関連性の不明瞭な内容についてリストアップしておくなど事前学修が重要であり、そのことが講義内容の整理や三次元的な身体の成り立ち、歯の構造についての理解を助ける。到達度試験や定期試験前には演習を設定しており、それまでの単元の振り返りをする契機となるばかりでなく、講義内容全体を総合的に整理し、関連性を確認するための動議づけになっている。各回指示した教科書のページを参考に事前学修を行うこと。

### 【演習】

演習は講義で学修した内容を十分に振り返り臨む必要がある。演習時間は歯の模型の計測とそれを元にしたスケッチを行うので、事前に形態的特徴が整理されている必要がある。演習時間中に計測が終了しなかった場合、ノギスを貸し出すので自己申告し次回の演習までに課題を完成させておくこと。演習時間中は適宜、教員への内容確認あるいは学生同士のディスカッション時間を設け、全体及び個々の学生の理解を深める。

歯のスケッチは歯の形態を描くだけでなく構造の名称や特徴を記入することが必要要件であり、この完成によって、歯の形態を視覚的に復習する資料とすることができる。

### 【アクティブラーニングならびにWebClassの活用】

WebClassで、次回の講義内容の予習課題を提示するので、課題を実施して次回の講義や演習に備えること。これらの内容に対するフィードバックは講義内で行なう。その他の演習課題や学修にかかわる情報などもWebClassにアップロードするので、講義の前後に毎回確認すること。課題等により生じた疑問はWebClassのメッセージ機能でも対応するが、次回の講義、演習中または講義の前後など適宜設ける教員とのディスカッションの場を積極的に利用すること。

歯の形態のスケッチは演習途中で提出を求めることがある。提出物は修正点をフィードバックするので、それを元にスケッチの修正に反映させ、最終的に完成度の高い成果物を提出すること。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 無

## 授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
MacBook Pro 14inch	Apple	1	視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
iMac 27 inch	Apple	1	視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
iPad Pro	Apple	1	視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
m-Book K700SN-M2S5	マウスPC	1	視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
LIFEBOOK	富士通	1	視聴覚用機器、基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成と提示用
カラーコピー機 image RUNNER ADVANCE	C3530F II	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
デジタル一眼レフカメラ一式	D700	1	基礎実習・研究用機器	解剖実習遺体の破格症例の画像記録
MSシュレッダー	MSR-25CM	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成
ノートパソコンHP 250G7 Notebook	14T85PA#AABJ	1	視聴覚用機器	教育教材の管理・集計用
スキャナー附属インクジェットプリンター EP-885AB	EPSON	1	視聴覚用機器	講義の配布資料作成